

1 学校教育目標
一人一人の個性を尊重しながら、自ら学び、考え、判断していく創造的な知性と豊かな人間性を持つ心身に健康な子どもを育てる。

2 学校経営ビジョン
○めざす学校像—児童が明日もきたいと思う学校、明るく活気のある楽しい学校、安全と環境が整備された美しい学校 ○めざす教師像—児童一人ひとりを生かし伸ばす教師、「人間力」「教師力」を磨く教師、保護者との信頼を築く教師 ○めざす児童像—心をみがく みふねっ子、知恵をはぐくむ みふねっ子、体をきたえる みふねっ子

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
①特色ある校風の樹立 ②学力向上の方策の推進 ③「心の教育」の充実 ④教職員の資質の向上 ⑤生徒指導の強化 ⑥安全教育と体力向上 ⑦人権・同和教育と特別支援教育の推進 ⑧家庭や地域との連携・融合 ⑨2学期制の充実	みふねの3つの合言葉(心をみがく みふねっ子、知恵をはぐくむ みふねっ子、体をきたえる みふねっ子)を中心に学校運営を行ってきた結果、職員・保護者・児童の評価の総合が9割近くになり、目標達成できた。学校ホームページはブログによる更新をおこなってきたが、そのことがうまく伝わりにくいレイアウトであったため、更新が一目でわかるレイアウトにする必要がある。主幹教諭と生徒指導主任との連携により、危機管理体制の強化、生徒指導体制の強化など重点的に取り組むことができた。校内研修では九州小学校国語教育研究会にむけ、国語科における新教育課程の実現化を図るために、全職員で研究・実践を行い指導力の向上につながった。国語科における基礎基本(学習用語)の定着がみられるようになったが、全般的に各教科において活用力・思考力(読解力)がやや弱い傾向にある。全校一斉に道徳の授業参観を行うなど、心の教育に力を入れてきたが、日常における実践力がまだ十分ではない。また、児童の挨拶について、朝会等の全体での挨拶は声が出ているが、個人での挨拶は声小さく目を合わせない児童も多い。運動面においては、好む児童と好まない児童の二極化がみられた。

5 総括表

① 特色ある校風の樹立 ⑨2学期制の充実

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標、本年度重点目標の周知 ・2学期制の意義の周知	・職員・児童・保護者に周知し、認識を教職員100%・児童90%、保護者80%以上にさせる。 ・教育活動を通して2学期制の意義を知らせる。	・機会あるごとに(職員会議・全校朝会・役員総会・保護者会等)で説明し周知する。 ・全校集会、学年集会、学級での指導などのようにいろいろな場面をとらえて、みふねの合い言葉(学校目標)と照らし合わせ全職員で指導の徹底を図る。 ・学校からの情報発信(HP、学校や学年・学級だより、保健だより、図書館だよりなど)では、学校目標とリンクさせながら継続して状況を伝える。また、各種配布物やHP上に学校目標を常時掲載して日常目に触れるようにする。 ・2学期制の特色を生かした教育活動をおこなう。
	○組織運営	組織運営の効率化	・学年主任会の充実と学年経営の円滑化を図る。 ・4部会の運営の効率化を図る。	・主幹教諭がリーダーシップをとり、学年主任会を必要に応じて行い、学年経営の基準を統一し、学年の直近の課題と解決の見通しを確認して学習・生活の指導を徹底する。 ・4部会の運営の連絡調整を行い、効率化を図る。
	○危機管理体制	危機管理意識の定着	・児童及び職員に危機管理意識の定着を図る。 ・学年に応じた危機に対応する行動を全児童・職員が取れるようにする。 ・緊急連絡体制の迅速化を図る。	・危機管理マニュアル、連絡体制の周知徹底をする。 ・毎月「防犯の日」の訓練実施、防犯ベル、ヘルメットの着用などの定着等で児童の安全に対する意識を高める。 ・交通立哨、青色回転灯パトロール指導の充実を図り、事故事件の予防に努める。 ・武雄お知らせメール登録率を95%以上にさせる。

②学力向上の方策の推進 ④教職員の資質の向上

学校運営	○教職員の資質向上	授業力(指導力)の向上 ICT活用能力	・校内研究の仮説に基づいた授業実践の構築をする。 ・全員研究授業を実施する。 ・電子黒板を使った授業を、週1回は行う。 ・夏季休業中における校内研修を2回行う。	・ひびきタイム及び朝の時間を工夫して基礎学力の充実を図る。 ・読むことの活用力をつけるために、理論研究・単元構築のあり方や指導方法の工夫などについて研修を深める。 ・各学年で、電子黒板を用いた授業方法を提案していく。 ・校内研修の年間計画に位置付け、夏季休業中に校内のICT担当教諭による研修を、2回に分けて行う。
教育活動	●学力向上	基礎学力と学習習慣の定着	・計算力・書き力等の向上を図る。 ・家庭学習の習慣化を図る。	・6月より、計算タイム・視写タイム(5分間)を継続実施し学習前の集中力アップを図る。 ・漢字検定テスト(年10回)・計算検定テスト(年2回)を実施し、すべての児童の90%達成を目指す。 ・夏季学力指導(少人数で5日間)を実施し、つまずき部分の解消を行う。 ・「家庭学習のススメ」を配布し、家庭学習の必要性を伝えるとともに、家庭学習等の定期的な調査を行い定着を図る。
		国語の読解力の向上	・単元ごとのテストにおける読み取りに関する問題の正答率を上げる。 ・学期末のまとめのテストにおける読み取りに関する問題の正答率を上げる。	・日々の授業におけるノートやワークシートの指導を継続し、読みとったことをもとに話し合ったり書いたりする言語活動を取り入れる。 ・比較し関連付け、類推する思考場面を設定し、考える力の向上を図る。
特定課題	●ICT活用教育の推進	パソコン室・スマートボードの利用率の向上	・パソコン年間指導計画にそった授業の実践及び指導法の向上を図る。 ・スマートボード及び電子教科書の研修会を実施する。	・スマートボード、パソコン室、電子教科書の利用状況を月別に集計する。 ・スマートボードを活用した授業交流会を行う。
		●小学校低学年の学習環境の改善充実	低学年における個に応じた指導の充実	・2年生では、小規模学級の長所を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・1、2年には、算数科国語科を中心にTTを展開する。 ・学習習慣、生活習慣の目標達成率を90%以上定着させる。
○小中連携	小中連携の強化	・5・6年担任による教科担任制を推進する。 ・中学校と連携した出前授業を実施する。	・教科担任制、学年内の交換授業を行い、専門性の高い教科指導を推進する。 ・中学校教諭の出前授業を実施し、専門的指導を生かす。 ・小中連携コーナーを設け、関心を持たせる。	

③「心の教育」の充実 ⑦人権・同和教育と特別支援教育の推進

教育活動	●心の教育	道徳教育の計画的実践と充実 児童理解の機会・時間の設定	・年間指導計画に沿った授業と日常指導を充実させる。 ・授業参観で全クラス1回以上の道徳の授業公開を行う。 ・個人面談の設定や教師間の児童理解の時間を設ける。	・道徳の時間や「心の時間」(第3水曜日の朝の時間)を活用して、構成的グループエンカウンターや学級の仲間作りの活動を行う。 ・挨拶の仕方や人との接し方などについて具体的に指導する。 ・毎週の職員連絡会で、気になる児童の情報交換の時間を取る。 ・年間2回程度の個人面談の時間設定を行う。
特定課題	○特別支援教育	支援を要する児童の支援体制の確立	・個に応じた支援体制作りを行う。 ・実態を把握し、対応について研修を行う。	・各学級の実態を把握し、全職員で取り組む。 ・特別支援ミーティングが中心となって取り組みの推進をする。 ・スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。

②学力向上の方策の推進 ③「心の教育」の充実

教育活動	○読書指導	・読書活動の推進と図書室の有効利用 ・家庭読書の定着と家読の推進	・昨年度の貸出し冊数(一人平均115冊)を上回るように本を借りる。 ・朝の時間の読書タイム、月2回「読書の日」を実施する。 ・調べ学習においても図書利用をさせる。	・読み聞かせ、読書週間、図書館まつり等を行い、読書への関心を高める。 ・級外職員も読み聞かせを行い、本に親しむ心育てる。 ・「読書の日」、祝日、祭日、休日の前日には、貸出し数を一人2冊にする。 ・教科等での調べ学習でも積極的に図書室を利用する。
------	-------	-------------------------------------	---	---

⑤生徒指導の強化 ⑥安全教育と体力向上

教育活動	○生徒指導	・生徒指導体制の強化 ・児童の基本的生活習慣の徹底	・主幹教諭と生徒指導主任を中心とした指導体制を確立する。 ・児童が自主的に挨拶、靴並べ、時刻を守るように声かけをする。	・定期的な心のアンケートを実施し、児童理解と課題解決の手がかりとする。 ・問題解決の指導体制を確立し、担任をサポートする。 ・毎週の職員連絡会で、生徒指導についての情報交換の時間を取る。
		●健康・体づくり	(運動) 運動習慣の改善や定着化 (食育) 望ましい食習慣の形成	・外遊びの奨励をする。 ・基礎体力の向上を図る。 ・「早寝・早起き」の奨励をする。 ・各学年食育の授業を年間3時間以上行う。 ・朝食喫食率を90%以上とする。

⑧家庭や地域との連携・融合

特定課題	○家庭との連携	家庭教育力向上へのアプローチ	・家読を実施し家庭読書を通じた親子のコミュニケーションを図る。	・月2回の「読書の日」に家読を奨励する。 ・全学級で「リレーうちどく」を実践し、家庭読書を通じた親子のコミュニケーションを図り、学級で感想を共有する。
	○地域との連携	地域人材の活用	・地域人材の発掘と活用 ・地域人材を活用した教育活動の広報	・校区全戸配布により地域人材(みふねサポーター)を募集する。 ・地域人材を活用した教育活動を実施する。 ・活動の様子を学校便りや学校HPで発信する。